

「新燃岳の火山灰採取 (1)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

2025 年 6 月下旬に、新燃岳（しんもえだけ）が噴火しました。新燃岳は、鹿児島県と宮崎県にまたがる霧島火山群に属する火山で、同火山群の中では、近年最も活動が盛んな活火山です。21 世紀に入ってから火山活動だけでも以下の通りになります。

・ 2001 年 5-9 月

活動増加（地震・火山ガスなどの監視報）
監視強化・情報公表（顕著な被害の記録は限定的）。

・ 2008 年 8 月 22 日

小規模噴火（フレッター／割れ目噴火）。
灰は約 25 km 到達との報告
近隣で降灰。監視強化。

・ 2009 年

噴煙・地震活動の増減
降灰は局地的。継続監視。

・ 2010 年

小規模の水蒸氣的噴火を複数回／2011 年の前駆段階
近隣で降灰・臭気等の通報。

・ 2011 年 1 月 19-27 日（と 2-3 月）

本格的マグマ噴火。1/26 に準プリニー (Sub-Plinian)、
プルームは火口上～7 km（推定）に達した報告。2 月
に溶岩ドーム形成、一部に火砕流。3 月にも活動。鉄
道一部運休、航空便欠航、道路障害、広域降灰（宮崎
県各地など）。一時避難勧告・避難者発生。

・ 2017 年 10 月

6 年ぶりのマグマ噴火
噴煙は数百～数千 m
立入規制・レベル引上げ等。

・ 2018 年 3 月 6 日以降～5 月・6 月

溶岩流出（溶岩流・溶岩ドーム）を伴う噴火。
5/14 に噴煙 4.5 km、火砕流が約 2 km 到達。
3～5 月に断続的噴火。6/22 にも噴火。
航空便欠航（複数報道）、広域降灰。警戒レベル 3。

・ 2019-2024 年

活動の増減・地震・噴気の変化など（群発地震・白煙
上昇などの監視情報）

警戒レベルや立入規制の運用。顕著な被害は限定的

・ 2025 年 6 月 22 日以降

爆発的噴火。6/22 09:09 に火口縁上約 2.6 km
その後も噴火継続。

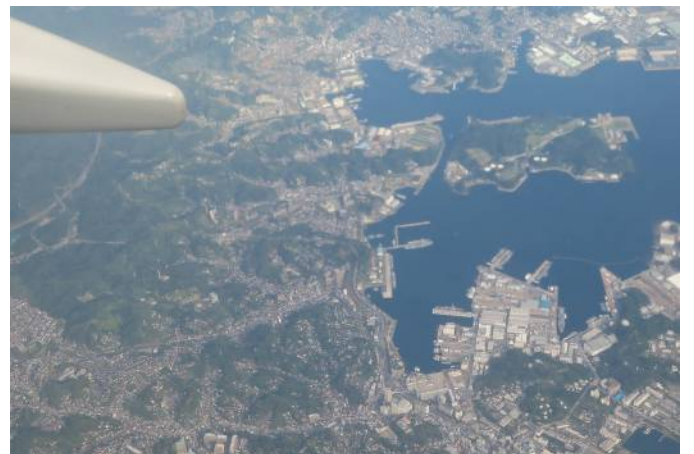
8/28 に火口縁上約 5.5 km 級の大きめ噴火。

広域降灰（霧島市・都城市・曾於市・鹿屋市・高原町
など）、警戒レベル 3 継続、交通に影響（清掃・視程
悪化・一部便調整）。

2011 年と 2018 年の噴火が記憶に新しく、2019 年
以降は「活発な活火山」としては、比較的静穏な状態
だったと言えます。この夏、熊本出張に合わせて、宮
崎・鹿児島経由の旅を組み、新燃岳山麓の状況確認
と、火山灰採取を試みました。



熊本出張は当然熊本空港行きが便利なのですが、今
回は宮崎空港入りとしました。この日、宮崎行きの午
前便はほぼすべて満席で、ソラシドエアの席をやっと
確保できました。この航空会社は初めて乗ります。



三浦半島がよく見えました。横須賀近傍の東京湾の
海岸線です。反対側には相模湾の海岸線も見えます。
どうしても地上の地形が気になってしまいます。